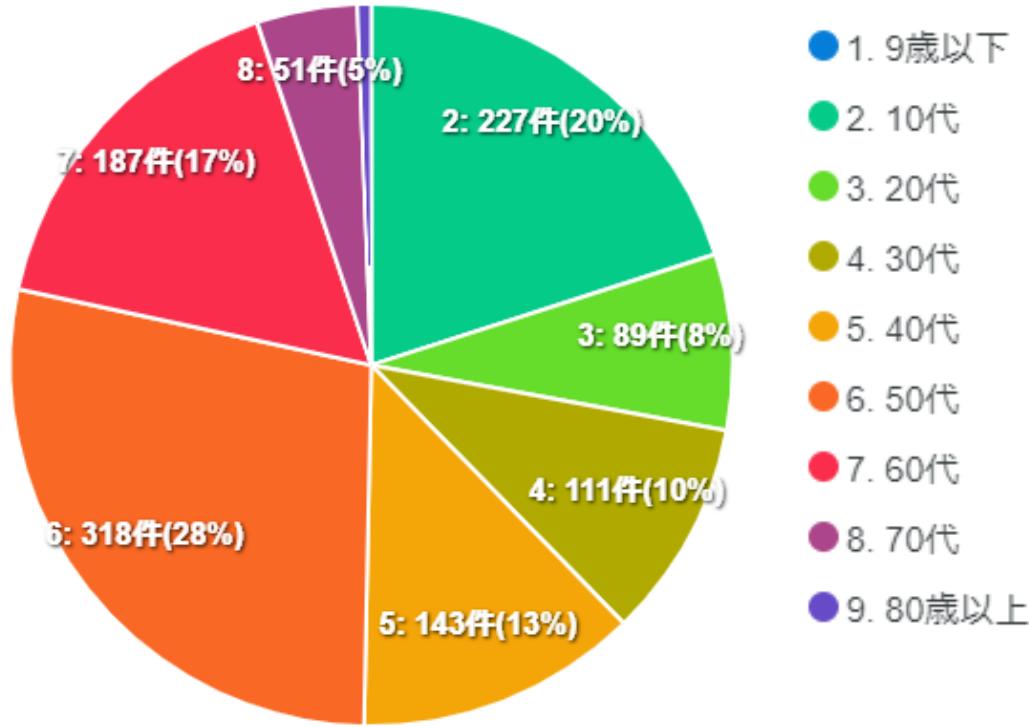


未来の暮らしに関するアンケート結果

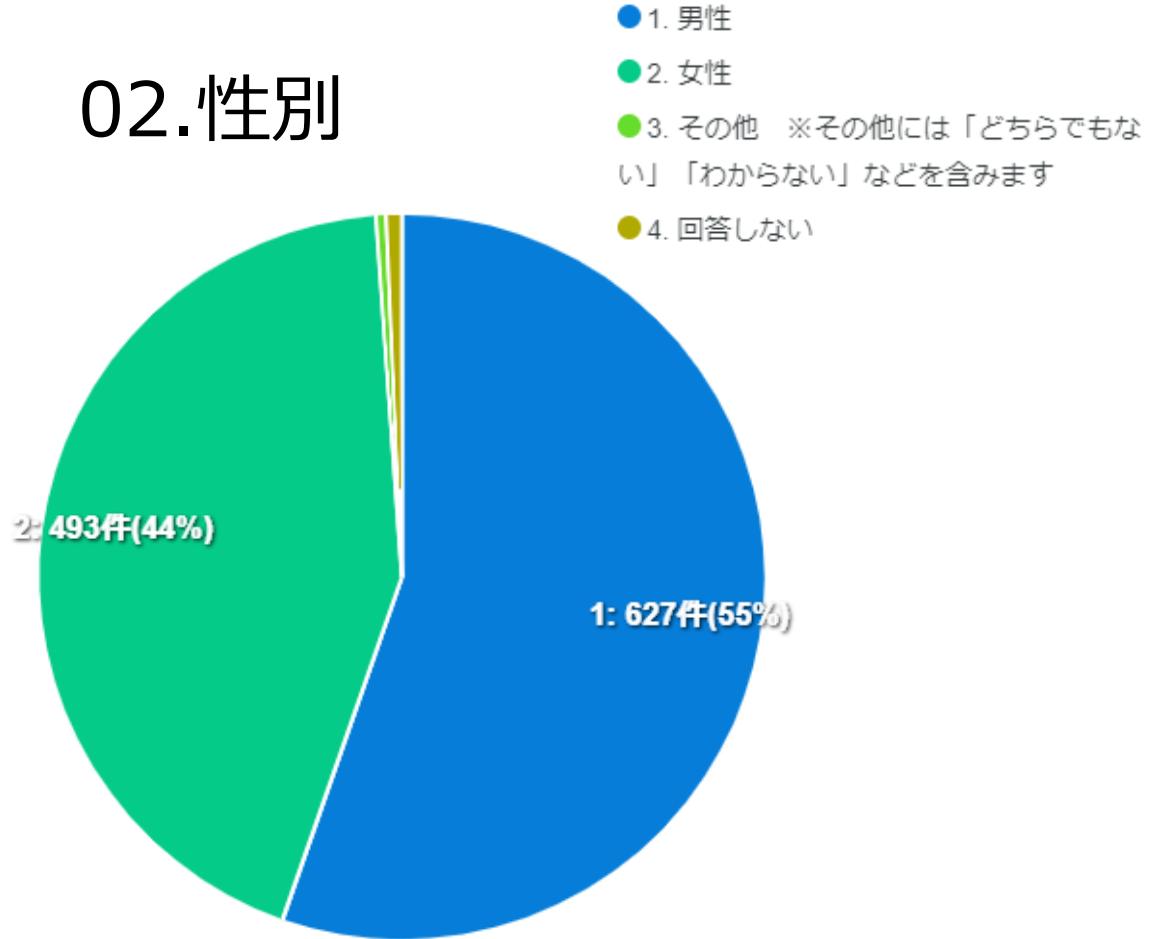


回答者の属性

01. 年代



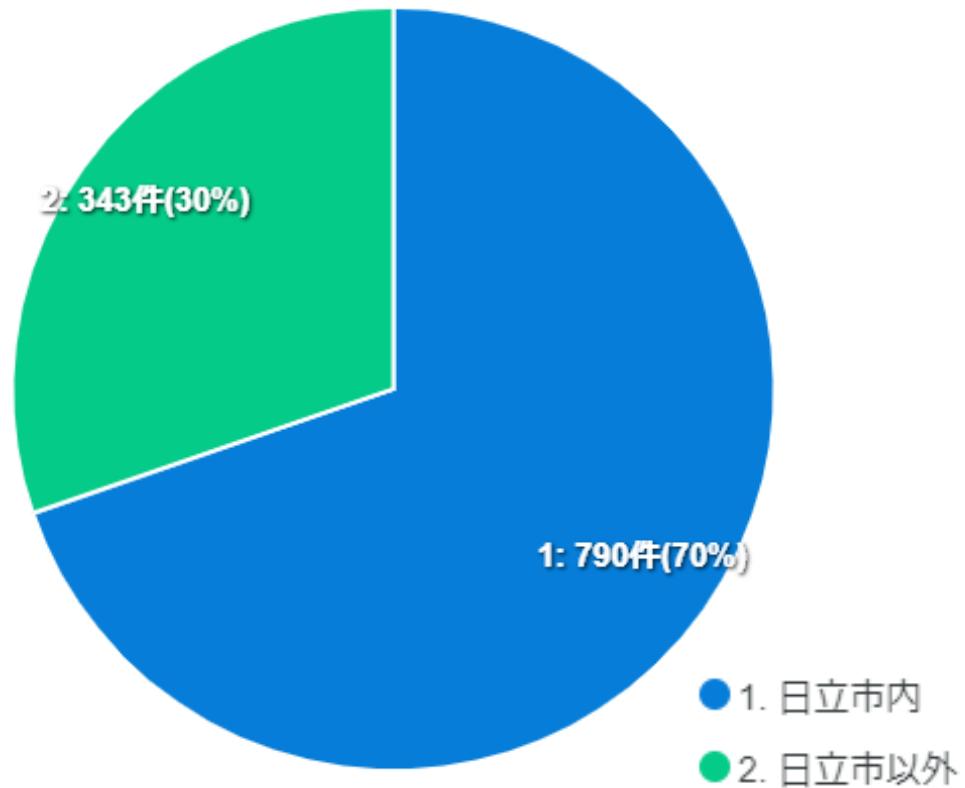
02. 性別



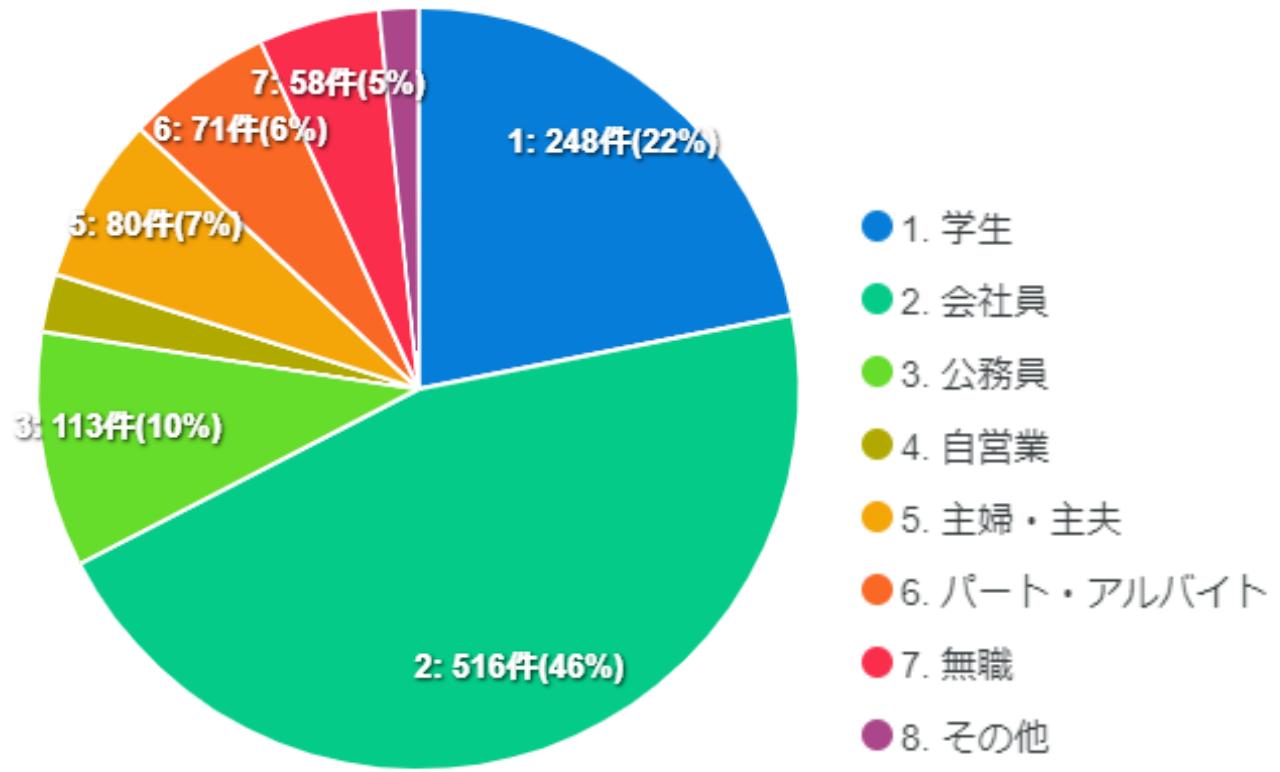
- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他 ※その他には「どちらでもない」「わからない」などを含みます
- 4. 回答しない

回答者の属性

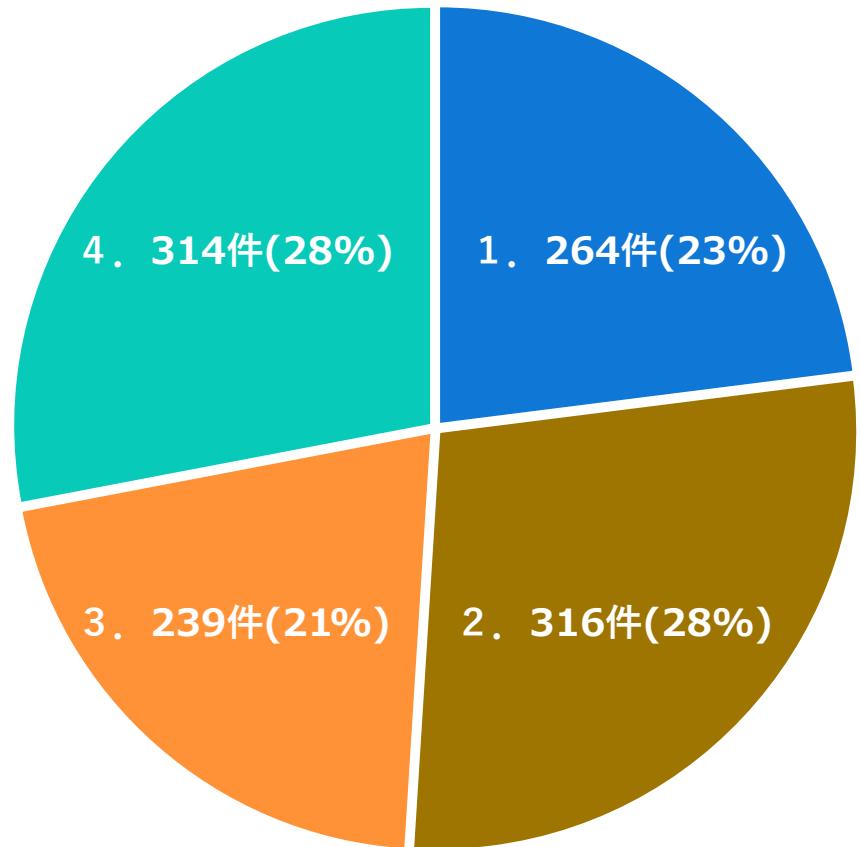
03.居住地



04.職業



最も気になる・興味のある暮らしのコンセプト



- 1 ①新たな挑戦と多様な声でまちをつくる暮らし
キーワード：若者の挑戦、世代間コラボ、住民発アイデア、暮らしの改善、自由な意見交換、リアルとオンラインの融合
- 2 ②地域の魅力を活かし、未来に受け継いでいく暮らし
キーワード：愛着ある場所、創造的な活動、匠の技術/文化の継承、デジタル職業体験、技術/ノウハウのデータ化
- 3 ③ほどよいつながりで交流と安心を育む暮らし
キーワード：アバター交流、心地よい距離感、世代間交流、地産地消の拡大、見守り合い、地域で生まれる安心感
- 4 ④日常に溶け込む自然の豊かさに包まれた、心地よい暮らし
キーワード：多様な働き方、気軽な自然体験、サステナブル教育、暮らしの快適さ、涼しさのデザイン

暮らしのシーンへの共感度

全12の暮らしのシーンについて、高いもので**90%**、低いもので**70%**の回答者が
「魅力を感じる」と回答



小さなアイデアから大きな挑戦まで、
住民の取り組みを様々なパートナーが支え、
コラボが広がっている。

起業に挑む若者：地域の特産物を使った新商品開発に挑戦。AIパートナーがレシピ提案や販売戦略をサポートし、試作や販売までスムーズに進められる。

サポーター：空き店舗の開放や、設備の提供により挑戦の場をつくっている。イベントのほか、オンラインでも仲間とつながり、世代を超えてアイデアを形にするコラボが生まれている。



町工場の技術体験が誰にでも開かれ、
メタバース(仮想空間)を活かして
匠の技を次世代に継承している。

大学生：体験募集を見かけて興味を持った学生が、学業の合間に工場での技術体験に参加し、匠から技を学び、コツをメタバース上に蓄積。そして、自らも技術の伝承者となっていく。

町工場の職人：若者に技術を教え、受け継がれることに誇りを感じている。自分の技をメタバースに保存し、未来で活用されることを楽しみにしている。



多世代が集まる交流の場が、
地元食材を楽しむきっかけとなり、
地域の魅力を身近に感じている。

多世代の住民：近くでマルシェが開催され、電動キックボードで気軽に立ち寄るように。そこで販売されていた茂宮かぼちゃの味や生産者の人柄に惹かれて、より美味しく食べられるレシピを教えてもらったり、他の野菜の生産者とも交流したりしながら、新しい出会いを楽しんでいる。



暮らしの便利さと
自然の豊かさが調和した環境で、
のびやかな生活スタイルが実現している。

子育て・働き世代：平日は、海に近いコワーキングスペースで自然を感じながらリモートワーク。特産物を守るために、副業で農業や漁業にも携わり、地域に貢献している。週末には、子どもと一緒に近くの自然公園でハイキングを楽しんだり、共同農園で野菜を収穫したりと、家族みんなで自然を身近に感じながら、心地よい暮らしを送っている。

コンセプトへの理解度

暮らしのシーンをまとめた全4つのコンセプトについて、約7割の回答者が「とてもよく／ある程度イメージできる」と回答



2035年の日立市では、住民一人ひとりの「やってみたい」という思いを、まちづくりに活かす新しい取り組みが進められています。

日々の暮らしをより良くする提案や、イベントやお店の企画などの創造的な活動によって、まちはにぎやかで居心地の良い場所へ変わっていきます。様々な取り組みがリアルとデジタルの両方で発信・共有され、地域外の人々の意見も取り入れながら、持続的にまちが成長していきます。



2035年の日立市では、これまで住民やまちが大切にしてきた場所・技術・文化を、一人ひとりができるることを活かしながら、未来につなぐ活動が育まれています。

残したい・受け継ぎたいと思う場所が、住民同士の心地の良い支え合いの場や、アトリエのような創造の場に形を変え、活用されています。また、匠の技術や文化が、それらに興味を持つ人同士の協力とデジタルの活用により、未来へ受け継がれていきます。



2035年の日立市では、まちは小さなにぎわいにあふれ、その中で多様な交流が広がり、誰もが自分にとって心地よい距離感で地域と関わることができます。

気軽な交流が広がることで、そこでの新しいつながりが地産地消を支え、まちににぎわいや活力を生み出します。一人ひとりが自然に地域の一員であることを感じ、「ここにいてよかった」と思える、安心感と誇りを持てるまちが実現しています。



2035年の日立市では、海や山などの自然に囲まれた心地よい暮らしが広がっています。住民は自然や景観を大切にし、その想いがまちづくりに息づいています。

ここでは、都市の機能と自然の恵みが調和し、誰もが自然とともに学び、遊び、働く持続可能な暮らしを送っています。豊かな自然と快適な暮らしを守りたいという住民の思いをデジタル技術が支えることで、未来へつながっています。

主な自由意見

- ・高齢者の交通手段確保や渋滞対策など、日常生活における利便性・安全性の確保を期待する
- ・日立市の地形や街並み、生活実感をより反映し、愛着が持てるイラストや内容への改善を求める
- ・イラストや説明文が抽象的で日常の暮らしとして想像しにくく、日立市で実現されるイメージが持ちにくい

